



事業内容 翻訳 / ローカライゼーション / スペシャリスト派遣

## 機械翻訳と海外事業の推進を通じ、 お客様のさらなる事業発展に寄与します



株式会社十印  
取締役社長  
日下部 優

株式会社十印  
専務取締役  
沼澤 昭仁

### 十印の経営理念に込められた想いと、事業内容および強みについてお聞かせください。

十印の経営理念の筆頭に掲げているのが「お客様ご発展のベストパートナーであること」です。これは、創業者が一番大切にしてきた想いで、社員に深く浸透しています。お客様には本業に集中してほしい。そして本業以外の業務のことは、十印に相談すればすべて解決できる、そう思っただけの世界一の会社を目指そうということです。

十印は1963年の創業以来、50年以上翻訳事業を展開してきました。当初は輸出用の技術文書を日本語から英語、さらに多言語に展開していました。1990年代より海外のソフトウェアを中心として英語から日本語へのローカライズが主流になり、現在はIT分野のローカライズにおける実績の高さで広く認知いただいています。また、近年はIT以外にも注力しており、医療や製薬、化学、エンターテイン

トなどの分野の翻訳も増えています。お客様は7割近くが海外のグローバル企業で、残り3割が日本の大手企業です。

お客様から高いご評価をいただいている特長の一つとして、プロジェクトマネジメント体制の強みが挙げられます。案件ごとに専属のプロジェクトマネージャーがチームをまとめ、全工程を管理する体制を敷き、プロジェクトに関する多種多様なニーズを捉えて、トータルに対応・提案しています。例えば、翻訳したコンテンツを印刷物にするだけでなく、動画やメディアの形にするなど、幅広いプロジェクト展開がワンストップで可能です。また大規模なプロジェクトでは、そのワークフローをいかに自動化し、業務効率の改善・向上を図るかといった取り組みをプロジェクトマネージャーとエンジニアが二人三脚で進めています。これもお客様のメリットにつながる大きな特長です。

### これからの事業成長を担う機械翻訳について、その内容と方向性をご説明願います。

2019年7月よりAI翻訳サービス「T-tact AN-ZIN」の提供を開始しました。これは、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）が開発した国産機械翻訳エンジン「みんなの自動翻訳@TexTra®」をセキュアな環境で商用利用できるようにしたものです。機械翻訳について十印は、



### 経営理念

1. お客様ご発展のベストパートナーであること
2. お客様は人々に信頼され必要とされる企業であること
3. 社員の成長を助け、社員が自己実現を達成し、生きがいと満足を感じることでできる職場であること
4. クラウド、ビッグデータ、人工知能といった新しい技術を用いること
5. 十印の業績の重要な役割を担って頂いている協力会社やフリー翻訳者、専門家の質を高め、成長を促進し、意欲と満足を与える会社であること
6. 社員の自立心を育て、独立志向のある者を支援すること
7. 世界中の人々から信頼され歓迎される会社であること

日本で開発が始まった1980年代前半から取り組んできました。当時の科学技術庁から依頼を受け、社内に言語研究を行う部署を設置し、翻訳システムメーカーへの対訳データの提供を開始したのが端緒です。そうした取り組みがNICTとの協力関係につながってきました。

「T-tact AN-ZIN」は、高性能・高機能でセキュアな自動翻訳を低価格で提供し、なおかつご契約いただいたお客様ごとのAI翻訳向け用語集の作成や活用サポートも行います。自動翻訳は、基本的に情報収集や下訳用途を前提としており、人による付加価値の高い翻訳をご希望の際は、当社にご依頼いただくことができる発注ボタンも備えています。

今後の方向性としては、まず高度なPDF機能を「T-tact AN-ZIN」に実装し、PDFのまま自動翻訳にかけられるサービスを提供します。また、50年以上の翻訳実績を生かして、「ITエンジン」、「半導体エンジン」といった分野ごとに特化した翻訳エンジンを作成し、リリースしていきます。将来的には、お客様ごとに最適化した翻訳エンジンの開発・提供を実現したいと考えています。

### 海外事業の拡大については、今後どのような取り組みを進めていきますか？

海外事業は、Toin America Inc.を統括拠点とする米国を中心に営業を展開しています。グローバル企業の翻訳需要を獲得し、特にCCJK（中国語繁体字・簡体字、日本語、韓国語）と呼ばれるアジアの四大言語について、日本国内および中国・韓国の拠点における翻訳体制によって多言語対応しています。これからの方向性としては、米国における営業展開のさらなる拡大に向け、従来の企業部門による



翻訳ニーズのみならず、マーケティングやコピーライティングの要素を含むサービス部門の翻訳ニーズにも対応し、業務の幅を広げていく考えです。

また、CCJK翻訳を通じて確立してきた「アジアの十印」というブランドを一層強化すべく、ベトナムやタイ、インドネシアなど東南アジアへのローカライズについても視野に入れていきます。東南アジアに拠点を持つ米国のお客様も多く、現地のニーズや市場動向などを理解した上でお客様と協業していく必要があるため、今後の事業展開においては、宝印刷香港やTRANSLASIA社など、TAKARA & COグループが持つ東南アジア拠点とのコラボレーションによる取り組みが増えると思います。

一方、国内大手企業のお客様も今後は、グローバル市場における成長を見据えた経営戦略が求められるでしょう。こうした中で十印は、これまで積み上げてきた経験をグループ全体で共有し、世界に信用される企業へと進化してまいります。